

はじめての

万葉集

[vol.76]

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介します

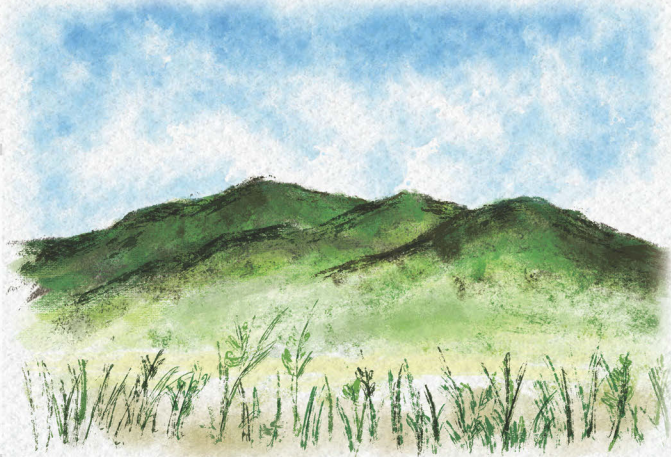


石川夫人とは誰か

いしかわのぶにん

この歌は、六七一年に亡くなった天智天皇のために詠まれた挽歌九首の一つで、『万葉集』の題詞には「石川夫人の歌」とあります。これ

ら



ささ浪の 大山守は 誰がためか
山に標結ふ 君もあらなくに

訳

ささ浪の御山の番人は、一体誰のために標を結いつづけているのか。もう君もおいでにならないのに。

石川夫人 巻二 (一五四番歌)

らの挽歌の作者は、天智の皇后であつた倭姫王をはじめ、額田王や舎人吉年など、近江大津宮における天智の後宮にいた女性達なので、石川夫人は天智のキサキであることがわかります。

子)が自らの親族に褒賞を与えた際、天皇の祖母としてその一員に列しています。この歌の作者である石川夫人とは、蘇我姪娘の可能性が高いと言えます。

蘇我姪娘が石川夫人と呼ばれたのは、父の石川麻呂が石川の地に保有していた宅を彼女が受け継いだことに由来すると考えられます。石川の地名は、檀原市石川町として今も残っています。この地にあつた石川宅は、蘇我馬子が仏像を祀つた所として『日本書紀』巻二十(敏達天皇十三年是歳条)に登場し、蘇我氏が古くから所有していた邸宅であつたことが知られます。蘇我氏の石川宅は、石川麻呂が自害した後に謀反の罰として国家に一旦接収され、その後あらためて姪娘の管理下に移り、「石川宮」と呼ばれたようです。

天皇)の二女を産みました。この二人のキサキのいずれかが石川夫人とみられますが、遠智娘は父の石川麻呂が六四九年に謀反の疑いにより自害した影響で健康を損なつたらしく、六五一年に建皇子を産んだ後まもなく亡くなつたようです。一方の姪娘は長命で、七〇四年に当時の文武天皇(阿閉皇女の息

(本文 万葉文化館 竹内亮)

万葉ちゃん

つぶやき

和歌に関連するものを紹介するよ!



万葉ちゃん

石川池(剣池)

(檀原市)

蘇我氏の石川宅を引き継いだ石川夫人の宮の正確な場所は不明ですが、現在の石川池(剣池)の近くと推定できます。池のほとりには万葉歌碑などもあります。



所 檀原市石川町
檀原市観光政策課
☎0744-21-1115